

イベントの社会的意義を再発見 ～ISO20121「イベントマネジメントにおける持続可能性」策定に向けて～

(社)日本イベント産業振興協会 国際規格室 越川 延明 氏



1. なぜ、今イベントに ISOなのか

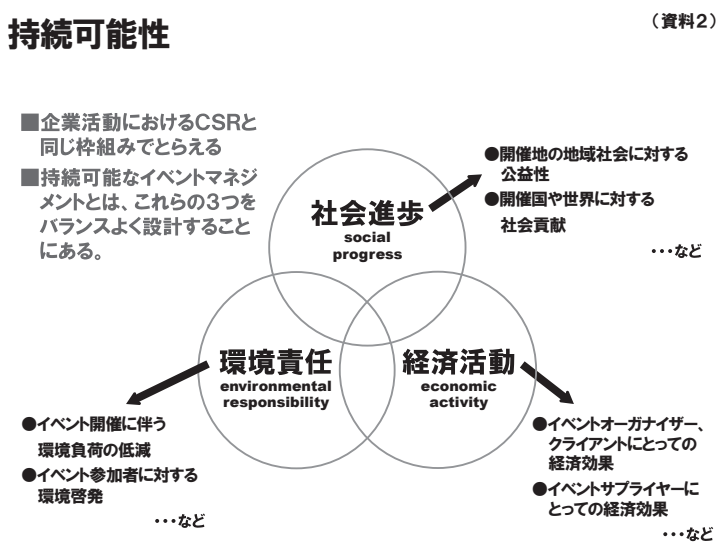
ここ数年、企業のブランド力を高めるためにCSR(Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)に取り組み企業がふえています。このCSRはSustainability(サステナビリティ: 持続可能性)という考えと合わせて社会に広く認識されているように思っています。これは企業が継続企業のあるべき姿を維持するために、社会に対し責任をもち、それを説明していくことで社会的容認を得て、信頼できる企業である必要があるとの考えが強く、なっていることが影響していると思われまます。また、ISO(International Organization for Standardization: 国際標準化機構)では、社会的責任をもつ対象が企業だけに限らないという考えから、SR(Social Responsibility: 社会的責任)という呼称で国際規格ISO26000の策定作業が大詰めを迎えています。こうした状況のなか、一過性のものであることが多いイベントでも、より社会に受け入れられるために、SRの考えを取り入れ、意義のあるイベントを実施する必要のあるとの考えが強まってきました。

2. ISO20121 策定の重要性

現在、まだ理念上の規格であるISO20121ですが、今後、国際会議での承認が得られ、実践されていくなかで、広く普及していくことになると思われています。実際にロンドンオリンピックやブラジルでのサッカーワールドカップという世界的に注目されるイベントでISO20121に適合する大会運営が実現し、その効果が有用なものであると実証された場合、ISO20121が開催イベントの価値をよりいっそう高いものにするに役立ちます。そのため、2019年に日本開催が決定しているラグビーワールドカップでは確実にISO20121が必要となつてくると思われます。これから招致しようとしている2020年のオリンピック、2022年のサッカーワールドカップなども、これを視野に入れないとコンペティターと戦えないことが予想されます。

3. ISOって何?

ISO(国際標準化機構)とは、各国の代表的標準化機関からなる標準化機関で、電気・電子、通信技術分野を除いた全産業分野に関する国際標準化を行なっている非政府組織です。日本でもこれまでに多くの企業・団体がISO規格を取得しています。有名な規格にはISO9001(品質マネジメント)やISO14001(環境マネジメント)があります。ISOは主に製造業を中心にその存在を広く知られるようになりましたが、製造業の現場で行なわれてきたマネジメントシステムが他の分野でも有効であることがわかり、現在ではその適用分野もサービス産業にまで広がり、約1万8000もの規格が存在します。ISOの取得は組織にとって信頼の証であり、ブランド力を向上させ、競争力を高める効果があると言われています。また、グローバルな視点で考えると国際標準規格としての意味合いから、貿易の円滑化や国際的な信用力の強化なども考えられます。国際標準化が進み、大量生産・大量消費の仕組みの発達にともない経済は発展してきました。しかし、その一方で交通事故の増加、環境汚染等、さまざまなリスクがふえてい



持続可能性についてはさまざまな考えが広く発表されていますが、ISO20121の策定に際しては、他のISO規格との整合性を保つために「社会進歩」「環境責任」「経済発展」という3つの視点から、イベントのあり方をバランスよく設計していくことがポイントと言えます(資料2参照)。「社会進歩」とは開催地の地域社会に対する公益性、開催国や世界に対する社会貢献...など

効果だけでなく、イベントの開催を通じて考えられる経済波及効果全体が該当します。このコンセプトを基本とし、日本からは日本が得意とする高齢者・障害のある人への配慮というソフト面、環境関連技術、アクセシブルデザイン等ハード面の両面での実績を踏まえて提案していきます。こうした考えを柱として「社会の誰もが参加できるイベントのあり方」を提案し、日本のサービス・技術を世界に広めていくことが一つの狙いとなります。

現在でもISOのすべてを理解しているとはいえず、一つ一つを根気よく丁寧に読み込んでいくことで、少しずつ理解を深めている最中です。今回の特集をお読みいただいた



製品規格は「ネジ」などが該当し、サイズ、色、形、素材等の製品そのものの具体的な仕様を定める。例:ネジ

プロセス規格 プロセスの具体的な手順や仕方を定める。例:溶接

マネジメントシステム規格 目的の為に必要なプロセスや役割、それらに求められる機能や関係を定める。例:環境マネジメント、品質マネジメント

いる皆さまがISOに対してなるべく面白く理解を深めていただくために、当団体のサイト内に「ISOの扉」(www.face.or.jp/iso)というコーナーを開設しています。ここではISOをもっと身近に感じていただくためのコラムと共に、ISO20121の進捗状況等も報告していきます。